

「任」という言葉を「自主性」とすりかえて親の責任を放棄している親に会うにつれ、大学時代の無責任きわまりない教員のことを思い出す。もっと保守的な体制を改め、教官の選抜方法を再考されるべきである。

(教育系、八七年卒、男)

■ 大学での教育と現在の職業で必要な知識は今のところ関連がないが、だからといって大学での教育が無駄だったとは思わないし、より実用的な教育をする必要があるとも思わない。大学では大学でしか学べないような専門的で高度な教育を目指すべきだと思う。たとえごくわずかの人がとしてもそれを必要とする人たちが必ずいると思うから、また直接必要としない人でも、理論的思考や体系的なものの方等、その教育から得るべきものは多いと思う。ただ一つ気になるのは教授方の講義方法である。もっと分かりやすい講義をするための技術を修得していただきたいと思うのだがどうだろう。

(理系、八四年卒、女)

■ 現在所属している中規模メーカーからみても広大の研究設備は貧弱である。また、教員の給与面の待遇も良いとは思えない。国づくりに大学教育は不可欠だと思うが、その大学が、時代の要請に応えられなくなっ

ているのではと不安に思うことがある。人材が集まる大学づくりに努力して頂きたい。日本は決して欧米に追いついてはいません。

(理系、七八年卒、男)

■ 私は大学の学部とは特に関係のない情報処理部門に従事しているため、特に専門教育の内容については、何もいえません。ただし、一般的にいうと、大学教育そのものは現在の自分の職務に何らかの貢献をしていると思います。一つだけはっきりいえることは、大学で「論理的な思考方法、並びにそれを的確に表現する能力」をあらゆる機会を見つけて高めることができれば良いと思います。(そのようなカリキュラム、学生の態度が必要でしょうけど)

(理系、八八年卒、男)

■ 一般教養は大いに必要だと思いが大講義室での一方的な講義はほとんど意味がない。もっとディスカッションやディベートを多くすべきだ。また大学時代コンピュータについてのまともな授業を全く受けたことがなく、研究室に入ってからパソコンで独学で学ばざるを得なかった。専門課程についてはただ欧米の論文を読むだけのゼミが多いが、これを議論・発表の多いものにする必要がある。

(理系、八九年卒、男)

女子には二重に厳しい 今年の就職



総合科学部 4年

横 彰 美

今年の夏は私にとって、暑くて寒い試練の夏だった。暑かったのは真夏に長袖を着て歩き回ったから、寒かったのはクーラーのきいた部屋で長時間もテストを受けたこと、冷や汗をかくようなことが何度もあったからである。

四回生である私は、生まれて初めての就職活動を経験した。不況まつただ中の今年は大部分の企業が採用を手控え、特に四大女子(四年生大学卒女子)の求人倍率は、〇・八三%と非常に厳しかった。結局、私が内定を頂いたのは、富士火災海上保険という会社の総合職であるが、そこに至るまでにいろいろ考えたり悩んだりした。

私が就職活動を始めたのは、普通よりやや遅い四月。内々定をもらったのは七月八日だが、採用の遅れた今年は、女子の採用は七月一日から

PROFILE

(よこ・あけみ)

◇総合科学科外国語コース在籍
◇卒論では、映画に見る日本人のステレオタイプを研究している。

の二週間に集中しており、実質的な活動期間は八日間。まさに短期決戦であった。

業種のほかにも女子学生には選択しなければいけないことがある。総合職か、一般職か、である。

企業に電話して求人情報について尋ねると、必ずといっていいほど聞かされるのは「総合職と一般職、どちらを希望ですか」である。もっとも、今年も女子(四大女子)の採用なし、という所も多かったが、どう答えるか非常に迷った。

最初は「単純作業の一般職よりやりがいがありそうな総合職」と考えていたが、調べてみると、業種や企業によって職務内容に差があり、明確な区別はないことが分かった。そこで、総合職・一般職にこだわらず「長く働けて、自分なりのキャリア・アップ・イメージの持てる会社」を受け入れることにした。

総合職を受けた企業は「結婚しても続けるか」といった厳しい質問が多かった。ある不動産会社では「入ってから音をあげられては困る」と営業同行までさせられたが、炎天下を延々三時間にわたって歩かされ、あまりのきつさに入る気をなくした。また、ある銀行のリクルーターに会った時には、開口一番「女の総合職なんか太るし肌荒れるし、いいことないよ」と忠告され、返答に詰まった。

● 男性主導は 不動の原理か? ●

一般職採用の会社では、さらに対応に苦しんだ。「事務職といっても、我が社では責任を持って仕事をしたいだけです」といいながらも、あくまでも男性のサポート役。ある商社の役員曰く「サッカーにたとえると、女性はゴール前でボールをセンタリングして、男性がシュートするのを助ける役目をしてほしい」という企業が多い。

また、別の商社では女子一般職の申込書にだけ、身長、体重、胸囲まで書く欄があり、周りの女子学生一同首を捻った。あまりやる気をみせると落とされるという噂が女子学生の間でまことしやかにささやかれ、「結婚しても働かないという女の子は即落とす」という面接官まで現れて、気がつくとも最初の理想はどこへやら、面接官の気になっている自分答えをしようと思いつかっている自分に情けなくなる時もあった。

最終的に二十社近い企業を回り、不合格通知もたくさん受け取ったが、結局、内定の決まった企業がもともと自分の理想に近い企業ではないかと思う。しかし、理想の働き方ができるかどうかは、むしろ入社してからが大切らしい。初心を忘れずに働いていきたい。